浜松赤十字病院の患者図書室活動

浜松赤十字病院図書室
司書　飯田育子

要　旨
【背景】医療従事者と患者さんとの間には、医学や医療に関する情報の量に大きな差がある。そのため、2008 年から始まった「医療安全全国共同行動」の目標 8「患者・市民の医療参加」では、「患者さんの情報へのアクセスを保障し、患者さんの理解をサポートし、医療者とのコミュニケーションを促進する」ために、院内患者図書室の設立が推奨されている。最近は患者図書室を開設する病院が全国的に増加してきたが、浜松赤十字病院（以下当院）では、1999 年 3 月から患者図書室活動を始めたので、その状況を報告する。
【経過と現状】当院の患者図書室は、「患者さんとご家族の情報入手をサポートすることにより、治療への理解を深め、医療スタッフとのコミュニケーションに役立ててもらう」ことに加え、「こころが癒される資料（図書や CD）の提供により、ストレスを抱えている患者さんの療養環境を快適にする」ことを目的としてスタートした。常設場所が得られなかったため、週 1 回程度医学図書室の司書が多目的室に資料を運び、2 時間開室した。利用対象も入院患者さんとご家族に限られ、ささやかな活動であったが、利用者には好評であった。2007 年 11 月に病院が郊外に新築移転し、新病院では今までの患者図書室活動を踏まえて、同年 12 月から医学図書室の一部を患者図書室として公開するようになった。患者さん用の閲覧机や椅子、インターネット検索できるパソコンを用意し、自由に持ち帰ることができるパンフレットも沢山揃えた。また病院開院日にはいつでも開室できるようにしたため、入院患者さんだけでなく、外来患者さんやお見舞いの方にも利用してもらえるようになった。しかし、提供できる新しい図書が十分ではなかったので、NPO「医療の質に関する研究会」の「患者図書室プロジェクト―みんなの医療情報 A から Z まで―」に応募し、2008 年度寄附対象施設（10 施設）に選ばれた。このプロジェクトから木製家具を寄贈してもらい、室内環境が一層整備された。また健康図書や医学書も寄贈され、約 1,000 冊の図書を提供できるようになった。さらに開室時間の延長や、入口を常にオープンするなど、今までより利用しやすいように工夫した。利用対象も、患者さんやご家族だけでなく、地域の方誰にでも来室してもらえるように拡大した。改装のため 10 日程休室し、2009 年 6 月 29 日にリニューアルオープンした患者図書室は、その後、入室者数も資料の利用も大幅に増加している。
【課題と展望】今後は、スタッフと協力して、「協働の医療」としての利用を考えて行きたいと思っている。患者図書室の資料を、病棟、外来から患者さんに紹介しやすいシステムの整備や、各種チーム医療での活用を検討したい。また、医学図書室の司書が利用者に対応しているという特性を活かして、要望があれば、医学データベース検索等のサービスも併せて提供して行きたいと考えている。